

(第三種郵便物認可)

トリ要配

世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会
の災害対応タスクフォー
スは6月15日、オンライ
ン学習会「特別な配慮
」を開催した。

イギリスでは国立医療
機関が障がい者の優先順
位は低いとガイドライン
に記載したり、イタリア
のあり方も見直されてい
くはずだ」と話した。

視聴者が参加したディ
スカッションで、篠原祥
哲・WCRP日本委事務
局長が、宗教者が社会で
果たすべき役割について
質問。誰一人取り残され
ないよう、だかこれには続き

国際葬儀連盟50周年大会・全葬連65周年大会

葬送儀礼文化の世界遺産目指す

世界88カ国・地域が加盟する国際葬儀連盟 (FIAT-IFTA) の創立50周年記念大会と全日本葬祭業協同組合連合会 (全葬連) 創立65周年記念大会 (神奈川県) 大会が6月23日、横浜市内のホテルでオンラインを併用して開催された。世界的に猛威を振るう新型コロナウイルス感染症に苦慮しつつも臨機応変に対処している状況が各国から報告された。また共同宣言では、葬送儀礼文化をユネスコの世界無形文化遺産への登録を目指す取り組みが盛り込まれた。

コロナ禍のため1年延
期となった大会。FIAT
T-IFTAの北島廣会
長は「私たち葬祭専門
者は、新型コロナに罹
れた個人や遺族に寄り
添った存在として携わ
る。全世界で懸命に対
処している葬儀界のメ
ンバーに深く敬意を表
す」と世界に感謝のメ
ッセージを寄せた。



横浜市内のホテルで行われた国際葬儀連盟と全葬連の大会。オンラインを併用して実施された。

世界大会実行委員長の石井時明・全葬連会長も「地球規模でのコロナ禍、世界のあらゆるところでわれわれの同業者、仲間たちが危険を顧みず使命を果たしている姿勢に誇りと感謝でいっぱいである」とエールを送った。

来賓祝辞では、彬子女王殿下が新型コロナで亡くなった人たちに追悼の言葉を述べた。また挽歌に込められた「哀」の意を繊細ながら、「死者を弔う儀式をするのは地球上で人類だけです。どんな人種、どんな民族にも

コロナ禍 各国とも葬儀簡略化 電気炉登場 火葬にエコの視点

各国からの葬儀事情報告ではコロナ禍の対応から最近の環境に配慮した火葬などが提起された。ドイツの法制度について述べたステファン・ユサー氏は、16の連邦州がそれぞれ独自の葬儀法を有しているが、基本は同じだとした。異なるのは施行の仕方だが、「コロナ死者の扱いに関して各州が個別に葬儀の方策を

定め、異なるガイドラインを出した。その結果、業界は混乱。厳格な規制が葬儀の準備に影響を与えた時には、遺族の怒りも勝ったと振り返った。

今日では火葬率が上昇し、全ての州で50%を超えている。しかし、亡くなった人の遺灰を分けることはドイツの法律で禁止されている。これは犯罪だと考えられている。今では国をまたいだ骨壺の移動の必要性から、法律の見直しについて国会議員と話し合っていると報告した。

ベルギーでは、コロナ禍以降、火葬率がアップのみを求める家族が増え、儀式的な要素が減った。この傾向が新しい定

「平和ネット 都内で連帯集会 尼僧、官邸前で座り込み」

具志堅隆松氏のハンカーストライク最終日の6月23日には、平和をつくり出す宗教者ネットら市

「堂々とわからないと言えらる大学、高野山大学」をライブ配信でPRした。

哲夫さんは「明治時代になると福沢諭吉が『学問のすゝめ』の冒頭で『天は人の上に人を造らず、人は人に人を造らず』と書いた。だがこれには続き

「遺骨残る土砂使用は国際問題 具志堅氏が再びハンスト」

沖縄県名護市辺野古の米新基地建設工事に、沖縄戦の戦没者の遺骨が残る本島南部の土砂を使う計画に反対し、ハンカーストライクを行った沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」の具志堅隆松代表が6月22日、同県糸満市の平和祈念公園からオンラインで記者会見した。具志堅氏は戦没者は日本人だけではない。国際問題だと訴え、政府に計画の断念を求めた。具志堅氏がハンストをするのは今年に入って2回目。沖縄戦の犠牲者らを悼む6月23日の「慰霊の日」直前の19日から県庁前(那覇市)で始め、21・23日に平和祈念公園に場所を移し5日間に行ったり実施。埋め立てに使

「法華経の教えを基に、世界のあらゆる問題と向き合い、解決を探る」というテーマで展示。入り口の横の展示スペースに天野喜孝氏の法華経画が展示され、行き交う人々の注目を集めていた。有名漫画家やイラスト

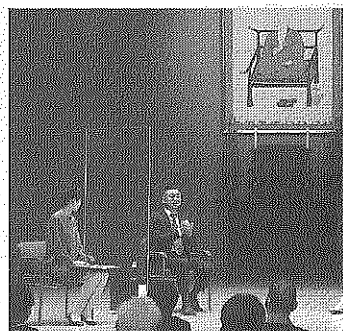
「立の中心人物である岡本副学長は、馬の世話や農業、域おこしなど現場体験を大胆に取り入れた独自の教員」と話した。

「遺骨残る土砂使用は国際問題」

沖縄県名護市辺野古の米新基地建設工事に、沖縄戦の戦没者の遺骨が残る本島南部の土砂を使う計画に反対し、ハンカーストライクを行った沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」の具志堅隆松代表が6月22日、同県糸満市の平和祈念公園からオンラインで記者会見した。具志堅氏は戦没者は日本人だけではない。国際問題だと訴え、政府に計画の断念を求めた。具志堅氏がハンストをするのは今年に入って2回目。沖縄戦の犠牲者らを悼む6月23日の「慰霊の日」直前の19日から県庁前(那覇市)で始め、21・23日に平和祈念公園に場所を移し5日間に行ったり実施。埋め立てに使

「平和ネット 都内で連帯集会 尼僧、官邸前で座り込み」

具志堅隆松氏のハンカーストライク最終日の6月23日には、平和をつくり出す宗教者ネットら市



登壇した岡本副学長。立の中心人物である岡本副学長は、馬の世話や農業、域おこしなど現場体験を大胆に取り入れた独自の教員と評価された。

「遺骨残る土砂使用は国際問題」

沖縄県名護市辺野古の米新基地建設工事に、沖縄戦の戦没者の遺骨が残る本島南部の土砂を使う計画に反対し、ハンカーストライクを行った沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」の具志堅隆松代表が6月22日、同県糸満市の平和祈念公園からオンラインで記者会見した。具志堅氏は戦没者は日本人だけではない。国際問題だと訴え、政府に計画の断念を求めた。具志堅氏がハンストをするのは今年に入って2回目。沖縄戦の犠牲者らを悼む6月23日の「慰霊の日」直前の19日から県庁前(那覇市)で始め、21・23日に平和祈念公園に場所を移し5日間に行ったり実施。埋め立てに使

「平和ネット 都内で連帯集会 尼僧、官邸前で座り込み」

具志堅隆松氏のハンカーストライク最終日の6月23日には、平和をつくり出す宗教者ネットら市